

# 令和7年度第1回高松市地域学校協働活動研修会報告書

■目的：コミュニティ・スクールの仕組みを活用して、地域学校協働活動を推進する意義やコーディネーターの役割等について、共に学び、考えることにより、共通理解を深めることを目的とする。

■開催日時：令和7年6月24日（火）13時30分～16時25分

■会場：高松市役所 13F 大会議室

■参加人数：59名

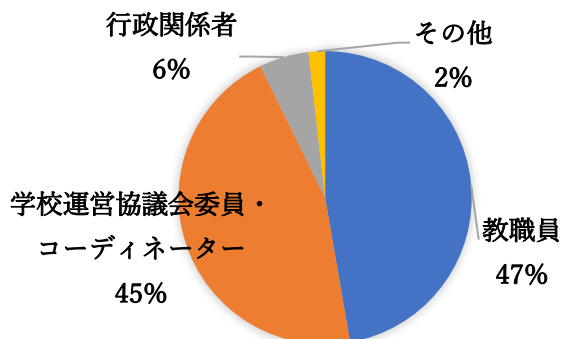
■受講対象者：高松市立小・中学校の教職員、学校運営協議会委員、コーディネーターやその候補者等

## ■研修内容

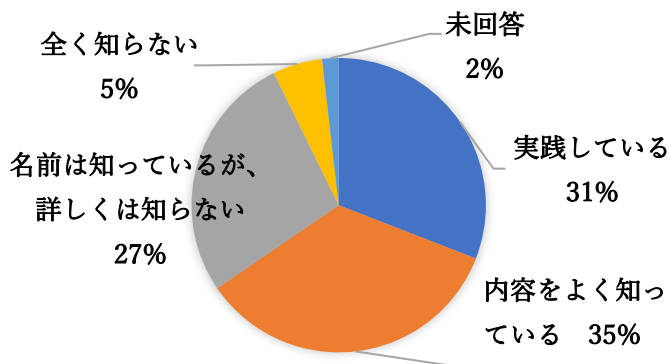
1. 講義：文部科学省総合教育政策局 CSマイスター 社会教育士 赤松 梨江子 氏  
意見交換：古高松南小学校 コーディネーター 藤澤 茜 氏  
国分寺北部小学校 コーディネーター 白井 邦彦 氏
2. ワークショップ
3. 全体交流・質疑応答
4. 事務連絡

■ アンケート結果（回答数 55名（回答率93.2%）  
 <集計結果>

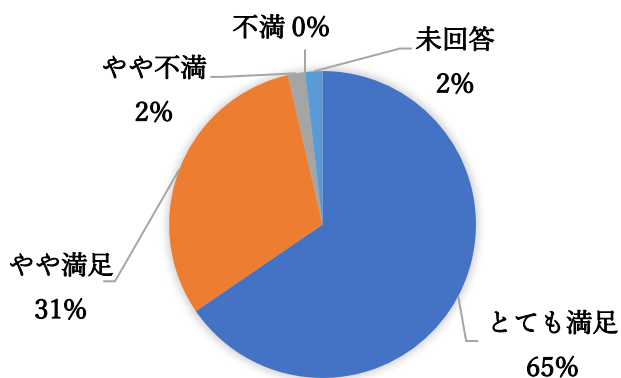
### 参加者の所属



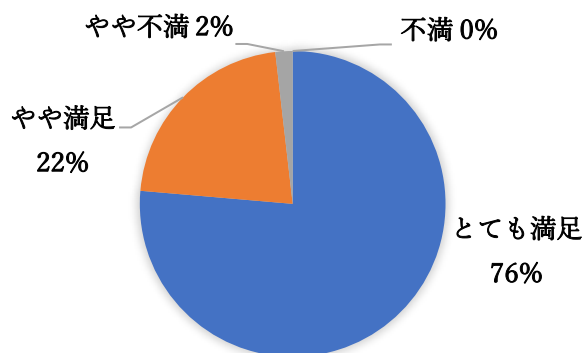
### 研修前の理解度



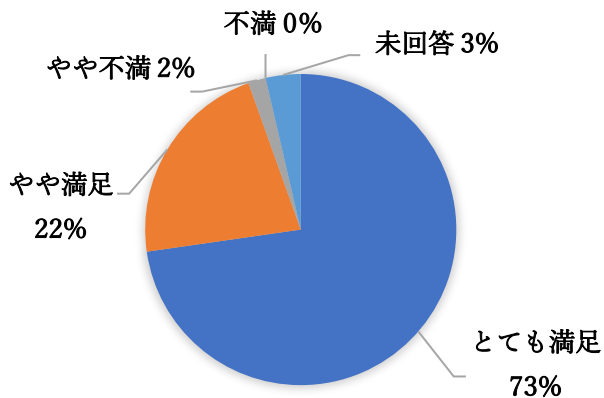
### 研修全体の満足度



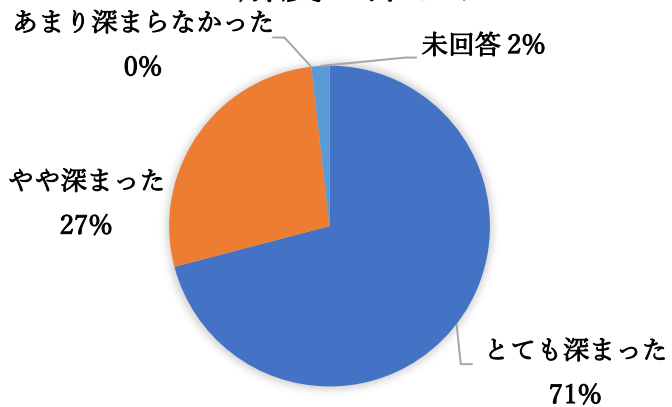
### 講話の満足度



### グループワークの満足度



### 理解度の深まり



## <主な感想等>

- ・地域と学校をつなぐ手立て（実践事例）をたくさん紹介してほしい。
- ・PTA 活動との連携も必要なのではないか。
- ・地域学校協働活動について何も知らなかったが、自分なりの認識ができた。
- ・グループワークではいろいろな立場から意見を聞くことができとても楽しかった。安心して話せる、本音が言える場としての研修会、とても充実した会だった。
- ・同じ地域でワークショップをして今後の企画などを考えたい。
- ・地域と学校との課題の共有が必要と大いに感じた。
- ・学校運営協議会で本音で話し合えることが必要なことを実感した。本音が言えないのは、我慢をしまい互いが重荷を負ってしまう。支え合い、助け合える仕組みが大事。
- ・現場の声として、学校側だけでなく地域の方々の思いも聞くことができ、今後の連携にもつなげていきたい。
- ・様々な立場の人が集まって話し合えるのがとてもいいと思う。それぞれの悩みを出し合い、話し合えてとても良かった。
- ・改めて地域との連携の大切さを実感した。
- ・繰り返し研修をしてほしい。
- ・小学校と中学校で取り組み方が変わってくると思う。今日は小学校関係者の出席が多かったと思うが、中学校を対象でやってほしい。
- ・対話型ワークショップでたくさんのお話が聞けて良かった。
- ・どこまで地域と結び付けられるのは学校なんだと改めて感じた。そこにいる方たちのアイデアがわくような学校運営協議会を運営したい。
- ・どんどん行政が参加できるように広げたらよいと思う。
- ・様々な立場の方と話をすることができて有意義だった。
- ・地域学校協働活動推進員としての活動内容について把握できてよかった。
- ・他の地域の取組等が聞けて良かった。
- ・学校と地域が協力して子どもたちを見守っていきたい。
- ・5 校区（5 名）でワークショップを行ったが、各地区の取組の良さや困り感が分かり、自らの地域に合う取り組み方を考えたいと思った。
- ・グループの方と様々な話をしていく中で、同じ気持ちを持たれていることが分かり、横のつながりを感じることができた。
- ・研修会に参加して、つながりを持てたことが本当に良かった。
- ・これからも地域とともに進みたい。
- ・他地域の状況がよくわかり、さらに良くするためにアイデアを出していきたいと思う。
- ・地域と学校が WIN-WIN になる活動をしたい。
- ・具体的なヒントを出し合う流れになかなかならなかった。
- ・コーディネーターだけの悩みが話し合える会があると良い。
- ・教わったことを学校運営協議会で実践したいと思う。
- ・家庭への支援、学校に来ない家庭にどう関わるか。
- ・サポーター同士の顔が見えるつながりを増やすこと。いかに増やすかがつながりを増やすために必要ではないか。